

## 地球温暖化対策実施状況書

### 1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 (届出者)の名称	学校法人トヨタ学園
地球温暖化対策事業者 (届出者)の住所	名古屋市天白区久方2-12-1
工場等の名称	豊田工業大学
工場等の所在地	名古屋市天白区久方2-12-1
業種	教育、学習支援業
業務部門における 建築物の主たる用途	学校
建築物の所有形態	自社ビル等(自ら所有し自ら使用している建築物)
事業の概要	高等教育
計画期間	令和4年4月1日 ~ 令和7年3月31日

### 2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和5年5月23日 ~ 令和5年8月21日		
公表方法	○	掲 示 閲 覧	(場所) 南棟5階 大学事務局施設管理G
		ホ ー ム ペ ー ジ	(HPアドレス)
		冊 子	(冊子名・ 入手方法)
		そ の 他	(その他詳細)
公表に係る問合せ先	052-809-1724		

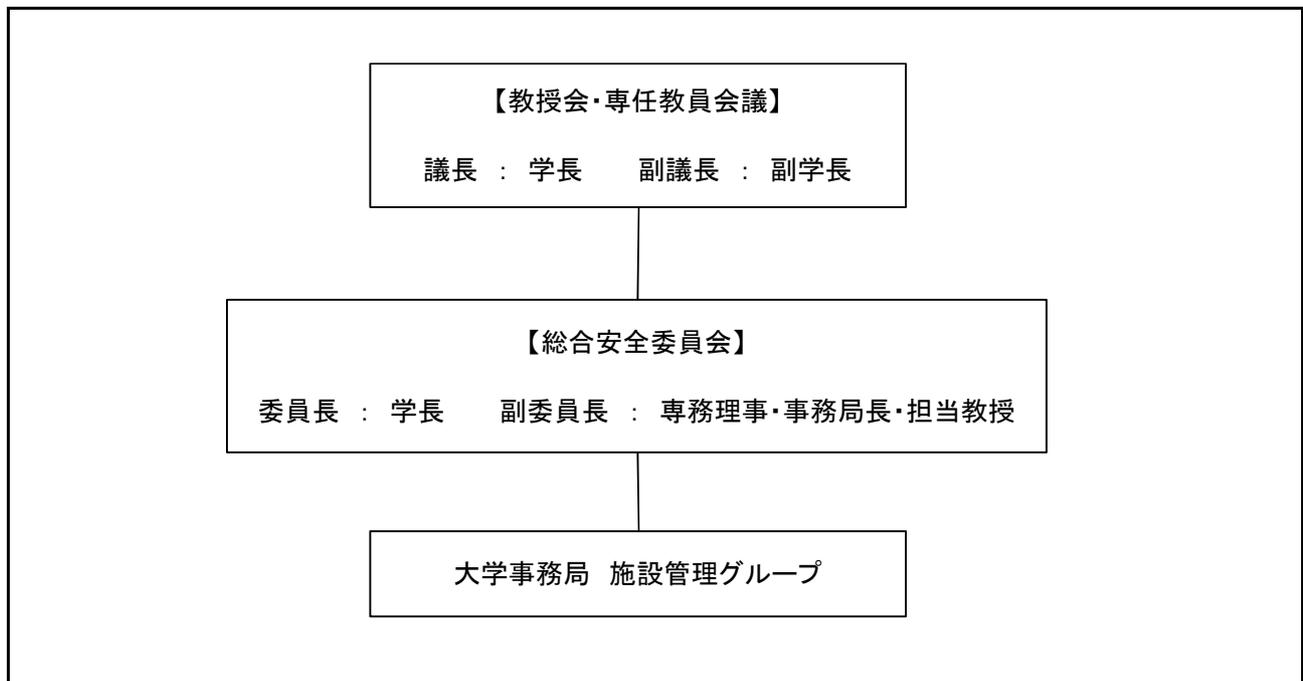
### 3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

#### (1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

自然環境方針(トヨタ地球環境憲章の主旨及び本学独自の課題を踏まえて設定)

- (1) 豊かな21世紀社会への貢献
  - ① 環境技術の追求  
太陽電池、燃料電池等の新エネルギー及び省エネルギー技術の開発
  - ② 人材の育成  
環境を常に意識し配慮できる人材の育成
  - ③ 省エネと廃棄物の低減
- (2) 自主的な取組み  
学生・教員・職員他が一体となって自主的な改善計画を策定し継続的な取組みを推進
- (3) 社会との連携・協力  
地域社会の一員としての活動を推進

#### (2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 4 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,838	t-CO <sub>2</sub>
（温室①を酸効除炭ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO <sub>2</sub>
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO <sub>2</sub>
	④メタン		t-CO <sub>2</sub>
	⑤一酸化二窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO <sub>2</sub>
	⑨三ふっ化窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO <sub>2</sub>
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		1,838

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
温室効果ガス総排出量	1,926	t-CO <sub>2</sub>	1,926	t-CO <sub>2</sub>	1,838	t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>
削減率（対基準年度）			0.0	%	4.6	%		%		%
温室効果ガスみなし総排出量					1,829	t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>
削減率（対基準年度）					5.1	%		%		%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
原単位あたりの排出量										
削減率（対基準年度）				%		%		%		%
原単位あたりのみなし排出量										
削減率（対基準年度）						%		%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

- ・2022年10月より全学的に省エネ施策を導入し、10月～3月の消費電力量は昨年比で11%削減することができた。
- ・2023年4月にカーボンニュートラルの実現に向けた行動計画（2023年度～2030年度）を策定し、2030年度には2021年度を基準としてCO2排出量を46%削減することを目標として掲げた。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネ・省資源 行動の実践	(空調) ・中央監視システムを用いた空調運用管理の徹底 ・空調運用ルールの定期的な見直し ・ブラインドやサーキュレーターなどの啓蒙 ・空調フィルターの定期清掃	全学的な取組の 実施・継続	・空調運用管理実施 ・空調運用ルール厳格化 ・ブラインド運用ガイドライン策定、サーキュレーター配布 ・空調フィルター定期清掃実施
	(照明) ・昼休みや残業時の不要な照明消灯の徹底 ・照明運用の定期的な見直し	全学的な取組の 実施・継続	・点灯箇所の見直し実施 ・調光率の見直し実施
	(換気) ・在室時換気の運用徹底 ・長期連休中など不要な場合の停止徹底	全学的な取組の 実施・継続	・退室時OFFの啓蒙実施 ・自動制御の導入実施
	(OA機器) ・パソコンに省エネモードの設定 ・OA機器を購入時は省エネ型を選定	全学的な取組の 実施・継続	・離席時モニターOFF、パソコン省エネモードの啓蒙実施
	(車両) ・業務車両更新時は、FCV・PHV・低燃費を選定	全学的な取組の 実施・継続	・業務用車更新なし
	(エレベーター) ・階段利用を啓蒙	全学的な取組の 実施・継続	・階段利用の啓蒙実施 ・油圧式エレベーターを電気式に更新
	(自家発電) ・太陽光発電の導入検討	全学的な取組の 実施・継続	・導入計画中

指針第 2 号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目 (令和 4 年度) における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)
H22年度	太陽光発電	太陽電池容量 28.3kW

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力	太陽光発電	9.1 t-CO <sub>2</sub>
熱		t-CO <sub>2</sub>

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 1 年度目 (令和 4 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO <sub>2</sub>

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

9.1	t-CO <sub>2</sub>
-----	-------------------

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペーパーレス化の推進</li> <li>・コピー用紙の効率的な利用</li> <li>・廃棄物の適切な分別回収</li> </ul>
--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

<ul style="list-style-type: none"> <li>・空調運用状況の点検</li> <li>・業務用車の点検</li> </ul>
--